

# 2006年度 早稲田大学 国際教養学部

## 日本史 解答

### I 古代・中世の法典 <標準>

問1オ 問2ア・エ 問3ウ 問4イ 問5ア

問6ウ 問7ア 問8エ 問9ア・オ 問10イ・ウ

問7・10が難しいが、ほかは標準的な問題であった。

### II 中世～近世の琉球 <やや易>

問1イ 問2ア・イ 問3ウ 問4イ 問5オ

問6イ・エ 問7ア・エ 問8ウ 問9オ 問10ア・オ

早稲田を受験するなら、当然備えておくべき沖縄史からの出題。正誤問題文の中には、早稲田が好む誤文も登場しており、受験会場で喜んだ人もいるはずである。問3はやや難しいが、「灰吹法」は2003年の政治経済学部でも記述形式で出題されているため、知っていた受験生も多かっただろう。問9は選択肢を眺めてみれば正解できるはずである。

### III 幕末～明治初期の外交 <やや難>

問1オ 問2ウ 問3エ 問4ア 問5イ

問6エ 問7ア 問8ウ 問9エ 問10オ

国際教養学部では定番となりつつある、英文史料を使った問題。ただし今年は、英文を読解する必要はほとんどなかった。各小問の選択肢を丁寧に消去法で解いていけば、問10以外は正解できる。問1・2ともにめったに出題されない単語だが、早稲田予備校の「石黒の日本史正誤問題演習」のテキストには登場しており、その授業の解説を覚えていた人には大喜びの問題であった。問2の選択肢がそれぞれ判別できるかどうかのカギ。

#### IV 古代～中世の仏教 <標準>

問1ア 問2ウ 問3ア 問4エ 問5ウ

問6イ 問7イ 問8オ 問9ア 問10ア

問9以外は拍子抜けするほどの簡単な問題。

#### 講評

正解率が9割になることも十分あり得る、わりと標準的な問題であった。昨年よりは簡単になっている。